

所得により無産階級の思想が悪化することは国防上由々しき問題で、道義の上に立つ國策の遂行が必要なりと言ふ事を問題にしたのであるが結局既成政黨自身の墮落に因るもので政黨政治と立憲政治を一つに考へてゐるこの既成政黨には現下の農村非常時に對する何等の對策も有りせぬ。今日の小作人は何故土地に不安があるか、明治政府は地租を日本財政の中心に置き所有權を絶對的のものとして、民法制定に當り小作人の權利を物權と認めず賃借權としたからである。小作權と所有權は相對立した權利を持たねばならない現在富山縣に於ては佃人に土地を賣つても土地取上はしない慣習がある。日農としては土地國有案を持つて居る。土地を政府にて買上げ小作米を半減にせよと言ふのであ

る。次に米穀問題であるが、本年の如く飯米の不足した年はない。政府の米穀對策の缺陷である。米穀統制法の最高、最底の値段の間に於て米商人が利益の爲に最底に近い値段で買占めて仕舞つたから飯米が不足し政府米の拂下げ運動が起つて來た、結局米穀統制法は商人の爲になつたが、農民の爲には一向利益にならなかつた。飯米運動は政治的に騒ぐ飯米を取つて來るし貸して呉れの運動をやる。山梨縣では飯米問題で縣參事會を開き拾萬圓で政府米を買ひ、一戸當り一表つづつ花を持たせて實は此方で取る方法でやらなければいけない。既成政黨は頼むに足らず、農道會は吾々農民の利害と共に運動し、農道政治に邁進し資本主義を改廢